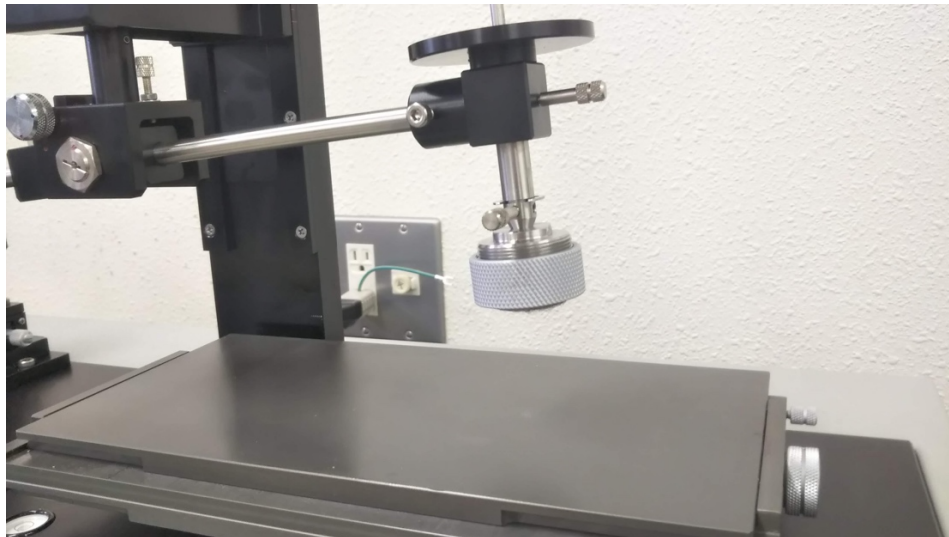


動摩擦試験について

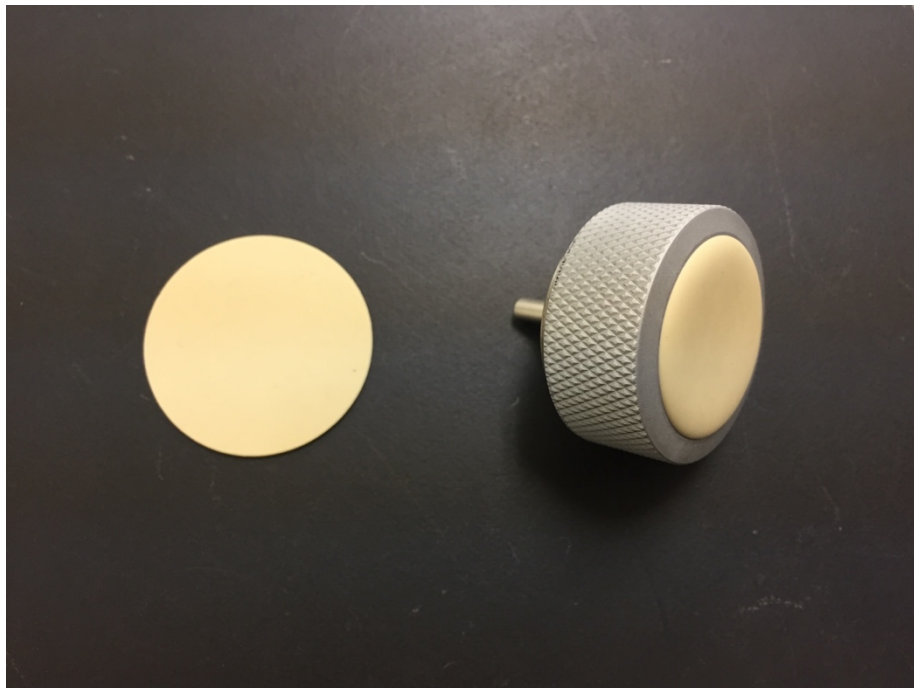
2022年2月2日に、名古屋市工業研究所にて、基材6種類（12点）の動摩擦試験を行いました。

使用機器：新東科学株式会社製 表面性測定機 TYPE:14

条件：垂直荷重 200g 移動速度 360mm/min 移動距離 30mm



下記写真のような専用のヘッドセットに人工皮膚を装着。



測定値の精度を上げる為、それぞれの素材に対し各 3 回の測定を行い、その平均値を求める方法で結果を出しています。

(人工皮膚は、素材条件毎に交換しています。)

測定結果

		動摩擦係数：単位 μk			
使用基材		1 回目	2 回目	3 回目	平均値
TPU	未塗工	0.450	0.463	0.451	0.455
"	塗工	0.372	0.357	0.333	0.354
PC	未塗工	0.577	0.562	0.613	0.584
"	塗工	0.278	0.292	0.293	0.288
アルミ	未塗工	0.374	0.378	0.392	0.384
"	塗工	0.283	0.281	0.282	0.282
ステンレス	未塗工	0.491	0.460	0.465	0.472
"	塗工	0.372	0.362	0.367	0.367
iPhone 画面	未塗工	0.285	0.279	0.284	0.283
"	塗工	0.143	0.149	0.150	0.147
リクレイン	未塗工	0.349	0.362	0.389	0.367
"	塗工	0.266	0.285	0.272	0.274

各基材ともコーティング処理品は未コーティングに比べて、動摩擦係数の低下が確認されており、コーティングを施すことで傷つきにくくなっていると判断出来ます。